

令和3年度 経営情報学科

自己点検・評価報告書

令和4年3月

富山短期大学 経営情報学科

目次

番号	点検項目名	認証評価(第三評価期間)			記載の有無(○×)	記載箇所(各報告書での記載ページの最初を記入) ■は記載すべき部署							
		基準	テーマ	区分		教務部	学生部	事務部	食栄	幼教	経情	福祉	
1	建学の精神	I 建学の精神と教育の効果	A 建学の精神	1 建学の精神を確立している。	×								
2	地域・社会貢献			2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。	○						1		
3	教育目標		B 教育の効果		1 教育目的・目標を確立している。	○						2	
4	学習成果				2 学習成果(Student Learning Outcomes)を定めている。	○						3	
5	三つの方針				3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(三つの方針)を一体的に策定し、公表している。	○						4	
6	内部質保証		C 内部質保証		1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。	○						4	
7	教育の質				2 教育の質を保証している。	○						4	
8	学位授与方針	II 教育課程と学生支援	A 教育課程	1 短期大学士の卒業認定・学位授与の方針を明確に示している。	○						5		
9	教育課程編成・実施の方針			2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。	○						5		
10	幅広く深い教養			3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。	○						6		
11	職業教育			4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は实际生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。	○						7		
12	入学者受入れ方針			5 入学者受入れの方針を明確に示している。	○						7		
13	明確な学習成果			6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。	○						8		
14	学習成果を測定する仕組み			7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。	○						8		
15	学習成果を可視化する指標			8 資格・免許取得率、専門職就職率など学習成果を可視化する指標を持っている。	○						9		
16	卒業後評価への取り組み			9 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。	○						9		

番号	点検項目名	認証評価(第三評価期間)			記載の有無(○×)	記載箇所(各報告書での記載ページの最初を記入) ■は記載すべき部署						
		基準	テーマ	区分		教務部	学生部	事務部	食栄	幼教	経情	福祉
17	教育資源の有効活用	B 学生支援	1	学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	○						10	
18	学習支援		2	学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。	○						11	
19	生活支援		3	学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。	○						12	
20	進路支援		4	進路支援を行っている。	○						13	
21	健康支援		5	学生生活に課題を抱える学生への相談支援を行っている	○						14	
22	授業外活動支援		6	学生会、サークル、ボランティア活動への支援を行っている。	×							
23	通学利便性支援		7	自転車・車通学、公共交通アクセスなど通学の利便性を図っている。	×							
24	同窓生支援		8	卒業生、同窓会への支援を行っている。	×							
25	教員組織	A 人的資源	1	学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。	×							
26	教育研究活動		2	専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	○						14	
27	事務組織		3	学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。	×							
28	人事・労務管理		4	労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。	×							
29	物的資源の整備、活用	B 物的資源	1	学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。	×							
30	図書館活動			図書館活動	×							
31	施設設備の維持管理		2	施設設備の維持管理を適切に行っている。	×							
32	技術的資源	C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源	1	短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。	×							
33	財的資源		1	財的資源を適切に管理している。	×							

2. 地域・社会貢献

(1) 根拠資料

富山短期大学 HP 他

(2) 現状

① 地域理解の増進

- ・地域理解を深めるために、官民の協力を得ながら地域事情・課題など地域志向の内容を積極的に取り入れた講座の開講

本年度は専門演習（東野ゼミ）及び生涯学習概論において、地域課題について取り組んだ研究があった。（詳細は富山短期大学 HP に記載）

- ・資格・免許取得に向けて、富山県内の施設・事業所等の協力を得、現場における効果的な実習を実施。（詳細は富山短期大学 HP に記載）

- ・地域課題解決型テーマや地域における調査活動等を取り入れた卒業研究等の積極的な推進

東野教授が、競争的資金である「公益財団法人富山第一銀行奨学財団奨学財団令和3年度（第38回）『研究活動に対する助成』」の採択による教育研究課題事業の助成金交付を受け、地域における公共図書館の活性化を図ることを目的として、学生とともに実態調査、課題研究を行った。

（詳細は富山短期大学 HP に記載、ならびに報告書作成）

長田講師が、競争的資金である「2021年度日本海学研究グループ支援事業」の採択による研究課題事業の助成金を受け、郷土料理・伝統菓子をクルーズ振興充実に活かす可能性を明らかにすることを目的とすること、また、これらの研究活動及び研究成果の公表を通して、地域文化の再認識や伝承に貢献することを目的に、課題研究を行った。研究成果については、酒田市役所、新潟県庁、富山県庁、高岡市役所、七尾市役所に還元を行った。

② 公開講座等の充実

- ・県民に役立ち、本学の特色をアピールできる魅力ある公開講座の積極的実施と、そのための効率的・効果的な PR

地域連携センターが統括する「富山短期大学公開講座」に注力し、4講座を担当した。（詳細は「令和3年富山短期大学地域連携活動年報」に記載）

- ・地域住民や学生を対象にした健康講座、介護講座、子育て講座などの、自治体や学校への積極的な売り込み・PR

ラジオの番組「とれたてワイド朝生！」（北日本放送）内の「教えてティーチャー！」のコーナーにて、田中准教授と藤野准教授が生出演し、専門分野の紹介や本学での取り組みについて紹介した。

(詳細は令和2年7月教授会資料に記載)

アルビス株式会社 大島店・八尾店のコミュニティスペースで「思いやりで地域を支えよう『とやまエシカルフェア』 アルビスでちょっと『エシカル』かんがえる。親子で参加！ミニ講座！」が開催され、本学経営情報学科の藤野准教授が、エシカル消費について小学生を対象にミニ講座を行った。

(詳細は富山短期大学 HP に記載)

③ 県内大学間連携の強化

・「大学コンソーシアム富山」を通じた県内大学との連携の強化を行った。

(詳細は令和2年5月、11月教授会資料に記載)

④ 高大連携事業の強化

・県内高校生の学習意欲増進のための高校出張授業を検討実施した。

(詳細は「令和元年富山短期大学地域連携活動年報」に記載)

・富山国際大学附属高校との教育連携の強化・促進を検討し、附属高校進路ガイダンスへの支援を実施した。

(詳細は「令和元年富山短期大学地域連携活動年報」に記載)

⑤ 県内産官学連携の促進

自治体へ新たな連携の働きかけ。南砺市との連携協定に基づく公開講座等を検討した。

⑥ 本学の地域連携体制の整備・強化

地域貢献活動に関する情報発信を強化するため、「富山短期大学地域連携活動年報」を作成した。

(3) 課題

① 公開講座をはじめとする各種地域連携事業について、地域連携活動が更に伝わるよう、可視化や情報発信の強化が必要である。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

① 南砺市との包括提携の更なる効果を生み出すべく、地域理解や地域課題に関して、組織的に把握していくことを検討課題としたい。

② 公開講座：多様な専門分野を有する教員の特徴を生かし、開講時期、内容の検討

③ 競争的資金の獲得を視野に、地域の課題解決を図る研究の推進

④ 学生の「とやままちづくりコンテスト」等への参加を促す

⑤ 「大学コンソーシアム」は実施時期等を再検討して、単位互換科目を提供する。

⑥ 附属高校進路ガイダンス支援を継続したい。

3. 教育目標 (担当：学科長・教務委員)

(1) 根拠資料

『令和3(2021)年度学生のしおり』

(2) 現状

- ① 学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。
(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。

(3) 課題

学科内で教育目的及び目標を周知する機会が多くはない。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

入学時オリエンテーションで、学生への教育目的・目標の周知を継続して図る。
学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた教育目標の点検・見直しを検討している。

4. 学習成果 (担当：学科長・教務委員)

(1) 根拠資料

『令和3(2021)年度学生のしおり』

(2) 現状

- ① 学習成果を、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づき定めている。
(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 学習成果を、「学生生活のしおり」やweb シラバスで各科目に「学修成果別評価基準(ループリック)」として記載し、学内外に表明している。
- ③ Web シラバスシステムを導入して、学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。(詳細はWeb シラバスに記載)
- ④ また、Web シラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学習成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。

(3) 課題

- ① Web シラバスシステムを導入したことで、情報量が多くなり分析に時間を要するようになった。
- ② 学習成果をさらに明確なものにする。一層、具体的で、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努めることが必要である。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

Web シラバスシステムを短時間で有効活用できる方策を検討する。

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた教育目標の点検・見直しを検討している。

5. 三つの方針（担当：学科長・教務委員）

(1) 根拠資料

『令和3(2021)年度学生のしおり』

(2) 現状

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。

(3) 課題

授業アンケートの項目が多いために回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

変更の必要性があれば三つの方針の見直しを図る。さらに学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた三つの方針の点検・見直しを検討している。

6. 内部質保証（担当：学科長・教務委員）

(1) 根拠資料

(2) 現状

① FD・SD の推進：授業改善事例集等の作成

本学科からは森井泉仁教授が研究授業の実施・報告を提出した。

② Web シラバスシステムを導入して、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。

(3) 課題

時間に追われて毎時の授業アンケートができないこともある。日常的な自己点検評価の方法を工夫する必要がある。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

授業アンケートでの満足度の向上をめざす。

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた自己点検・評価を検討している。

7. 教育の質（担当：学科長・教務委員）

(1) 根拠資料

(2) 現状

① 多面的な学修成果の把握による、「能力基準別評価方法」、「ルーブリック」、「シラバス」の点検と改善

学科長と教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web シラバスでの精緻なチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼している。

② 「授業アンケート」の利用による学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析
・令和元年度の学科の「授業アンケート」については、学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートで実施している。

・科内会議や学科 FD で随時、学修成果の測定・評価内容の見直し・改善を一定程度実施している。

(3) 課題

複数教員による担当科目の共通理解がまだ不十分である。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

授業アンケートでの満足度の向上をめざす。

8. 学位授与方針 (担当：学科長)

(1) 根拠資料

『令和3(2021)年度学生のしおり』(P42,43,117)

(2) 現状 (卒業認定・学位授与方針の点検・見直しの状況)

学則第2条の2「学科の目的」に照らし点検を実施したが、特に問題はなかったため見直しは行っていない。

(3) 課題

特になし

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

社会情勢や企業団体のニーズにマッチしているか否かを毎年点検する。

9. 教育課程編成・実施の方針 (担当：学科長)

(1) 根拠資料

『令和3(2021)年度学生のしおり』(P43)

(2) 現状

① 教育課程の点検・見直し状況

デジタル化技術が加速する社会を見据え、教育課程編成方針(2) ICT リテラシー・

専門基礎教育について点検を実施し、DS（データサイエンス）やDX（デジタルトランスフォーメーション）教育を取り入れるための見直しを行っている。

② 非常勤講師・学生等との教育課程懇談会の実施状況

コロナ禍という状況を踏まえ懇談会は実施していないが、配慮学生等を含めた情報交換を、関係の非常勤講師と実施している。

(3) 課題

DS（データサイエンス）、DX（デジタルトランスフォーメーション）教育の早期導入。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

DS等のデジタル教育を全学と歩調を合わせ学科にも展開する計画である。

10. 幅広く深い教養（担当：教務委員）

(1) 根拠資料

『令和3(2021)年度学生のしおり』他

(2) 現状

① 短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。（詳細は学生生活のしおりに記載）

② 教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

③ 総合教養科目、外国語・体育科目など教養教育の改善・充実

大学教育の目的と学び方や、学習に必要な基礎学力、および社会人基礎力の修得を目標とする科目「大学教育と学修」を、学科の専任教員がオムニバス形式で1～2回担当し実施した。（詳細はWeb シラバスに記載）

④ 初年次教育・導入教育の充実

民間会社を活用し、数学、英語、言語思考力に関するプレースメントテストを実施した。これらの結果を踏まえ、教養演習で指導・助言を行った。

（結果は経営情報学科NASにて保管）

① 教育課程外における、学生・教員の交流活動や地域と連携した学外活動の充実・改善

教員によるボランティア活動参加への支援・指導を実施した。例えば、富山グラウジーズのボランティア等を通して、地域交流活動を促進した。また、県内地域との連携した学外研修をゼミ単位で数回実施し、大学祭においては古本市を開催した。（詳細は富山短期大学HPに記載）

⑥ 教養演習では、読解力、不理解箇所の調査力、内容の整理力、資料の作成力、発表のプレゼンテーション力というビジネスパーソンが必要とする基礎的能力の習得を目的とした教育を行っている。具体的には、各教員が少人数制によるきめ細

やかな個別指導を行うことにより、学問修得の面だけでなく、ディスカッションやコミュニケーションを通じて、社会常識を確認するための人間的成長の面についても習得を目指している。

(3) 課題

学科内で教養科目編成の方針を周知する機会が多くはない。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

②、③、④、⑤の継続

1 1. 職業教育 (担当：実習・インターンシップ担当者)

(1) 根拠資料

① 北日本新聞朝刊 (2021年12月8日)、富山新聞朝刊 (2021年12月8日)

② 企業団体からの評価票 (経営情報学科 共有ドライブ)

(2) 現状

① インターンシップの取り組み

本年度も夏季休暇を利用し、約50の企業団体に、ほぼ全員の1年生が参加して3日間～10日間就業体験を行った。また、12月にはその成果をプレゼンする学内発表会も実施し、体験の情報共有とプレゼン力の養成を図った。

② インターンシップの効果を高めるための取り組み状況

企業団体からの評価票を学科教員で共有し、就職指導等に活用している。

(3) 課題

公共機関での受入れがコロナの影響で激減した。やむを得ないことではあるが、オンライン等での実施も含め検討を頂く。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

(3)について、富山県インターンシップ協会へ依頼し、公共機関に検討して頂く。

1 2. 入学者受入れ方針 (担当：入試委員)

(1) 根拠資料

入試管理委員会配布資料

(2) 現状

- ・ 多様な入学試験の実施と安定的な学生確保

推薦の指定校枠区分については高校側の要望なども含め柔軟に対応し早期確保を目指した。その結果、推薦・特別入試では76名を確保できた。

(3) 課題

経営情報学科のアドミッションポリシーである「職業人の育成」に重点を置いた

配点の見直しが課題である。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

次年度も安定的な学生確保ため、データ分析とあわせて、推薦の指定校枠区分について柔軟な対応を図り、入学定員の確保につなげていきたい。

1 3. 明確な学習成果 (担当：学科長・教務委員)

(1) 根拠資料

(2) 現状

① 多面的な学修成果の把握による、「能力基準別評価方法」、「ルーブリック」、シラバス」の点検と改善

・学科長と教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web シラバスでの精緻なチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼した。

・科内会議や学科 FD で随時、学修成果の測定・評価内容の見直し・改善を一定程度実施している。

② 「学生アンケート」の利用による学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析

学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートで実施した。

(3) 課題

学科内で学科 FD を実施する機会が多くはない。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

①、②の継続

1 4. 学習成果を測定する仕組み (担当：学科長・教務委員)

(1) 根拠資料

富山短期大学 HP

(2) 現状

① 教務部で Web シラバスシステムを管理しており、学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。

(詳細は教務部で記載のため省略)

② 2年間の学習成果を集約したものとして「専門演習報告」を作成している。

(詳細は富山短期大学 HP に記載)

(3) 課題

授業アンケートの項目が多いために回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた学習成果を測定する仕組みの点検・見直しを検討している。

15. 学習成果を可視化する指標 (担当：学科長・教務委員)

(1) 根拠資料

富山短期大学 HP

(2) 現状

- ① 就職支援センターでは資格取得率や専門職就職率等を調査し、公表している。

(詳細は富山短期大学 HP に記載)

- ② 教務部で「授業アンケート」の結果を公表している。

(結果は経営情報学科 NAS にて保管)

- ③ 令和3年度卒業生(121名)の資格取得者数は図書館司書21名、ビジネス実務士121名、上級ビジネス実務士64名、情報処理士121名、上級情報処理士67名、秘書士38名、ウェブデザイン実務士8名、日商PC検定2級(文書作成)55名、日商PC検定3級(文書作成)117名、日商PC検定2級(データ活用)40名、日商PC検定3級(データ活用)115名、日商簿記検定2級1名、日商簿記検定3級39名、秘書検定2級32名、サービス接遇実務検定準1級13名である。

(3) 課題

授業アンケートの項目への回答率は1年生が84.9パーセント(前年度は96.4パーセント)、2年生が83.5パーセント(前年度は93.0パーセント)と前回と比べると低くなっている。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

- ①、②の継続

16. 卒業後評価への取組み (担当：就職担当)

(1) 根拠資料

卒業生就職先報告書

経営情報学科 NAS システム

(2) 現状

- ① 就職支援センターが中心となり、毎年卒業生の就職先を訪問して評価を聴取している。得られた情報は、就職支援センターと経営情報学科教員全員で情報共有を

図り学習成果の点検に活用している。

(訪問記録は就職支援センターと経営情報学科事務室の両方で集約保管)

- ② 学生の就職活動の状況や内定取得の最新情報は、各ゼミナール担当教員が主となり学科共有ドライブにて管理し情報共有を行った。またこの学科共有ドライブは就職支援センターも閲覧・管理できるシステムに改善し、進路決定に困難であると想定される学生の早期発見と支援に活用している。

(結果は経営情報学科 NAS にて保管)

(3) 課題

- ① コロナ禍にあり、企業訪問が困難な現状が見られる。
② 学科共有ドライブが就職希望者の対応が主になっていて、編入学希望者の情報共有が困難である。

(4) 特記事項

(5) 次年度実施計画

- ① コロナウイルス感染状況を鑑みた企業訪問を都度検討していく。
② 学科共有ドライブの入力項目を見直し、編入学希望者の動向も把握できるようにシステムを見直す。

1.7. 教育資源の有効活用 (担当：学科長)

(1) 根拠資料

令和3年度外部認証評価資料(令和3年10月19日)

(2) 現状

経営情報学科、教育課程編成方針3分野の教育を体系的・系統的に実施するために以下の設備を活用している。情報機器の配置状況は以下である。

① 情報教育関連

- ・ Zoom 授業用クロマキー合成機器一式 (A211)
- ・ 教員発信用パソコン、学生閲覧用モニター、音響等一式 (A325、A227)
- ・ パソコンセッティング説明用3面スクリーン (A330)

② プレゼンテーション教育関連

- ・ 大型モニター、専用制御ソフト、専用サーバー等一式 (A131 プレゼンスタジオ)

③ グループワーク演習関連

- ・ スタンド式モニター (A313)

④ 秘書教育関連

- ・ 秘書教育用備品セット一式 (A302)

(3) 課題

情報教育関連設備の修善 (A330 教室のプロジェクター、音響設備一式)

(4) 特記事項

特になし

(5) 改善状況・改善計画

(3)につき、学科及び教務部で予算計上をして修善依頼。

18. 学習支援 (担当：学科長・教務委員)

(1) 根拠資料

経営情報学科 NAS システム

(2) 現状

① 成績評価や各種学生アンケート結果の学生へのフィードバックとアフターケアの充実

- ・ 授業科目の履修生成績評価や、各種学生アンケート結果などのデータ収集とフィードバック方法、及びアフターケアの充実については、各教員が授業改善レポートで点検し、改善のための検討を行った。
- ・ プレースメントテスト、学生アンケート結果のデータは学科で共有され、それらを学生にフィードバックし、個別指導を実施した。とりわけ入学前後の早い段階での情報共有により、2年間の効果的な指導につながるよう取り組んだ。(結果は経営情報学科 NAS にて保管)

② 成績開示と履修指導の実施及び個別指導の充実

- ・ 学生の成績は GPA 評価を付加した資料を学生に開示し、それを基にゼミ担当教員が学生の個別指導を行っている。
- ・ また、科内会議で学生指導の状況を共有するなどして充実させた。今年度は出欠管理を厳しく行い、4回以上欠席者は保護者へ郵送で連絡を行う。
- ・ また、成績等不振学生に対する個別指導を教授会決定内容に準じて実施した。
- ・ さらに、成績不振学生に対する個別指導として、保護者懇談会(大学祭期間中)を実施し、保護者への現状理解と情報共有、当該学生の意識確認などを行った。

③ 熟度別授業や少人数クラス、補習授業など基礎学力不足の学生に対する取組の強化

令和元年度入学生も数学、英語でプレースメントテストの予算化を行い実施した。

④ アクティブ・ラーニングを導入した授業科目の増加

- ・ 学科ではアクティブ・ラーニングの導入を推奨している。
- ・ 毎回の授業アンケート結果に対して各学生にコメントを返し、匿名性を保持した状態で全員へ返信することで、他受講生の意見や類似した意見を参考に、主体的な学びを促進させることを試みた。

- ⑤ 授業外学修時間を増やすための授業方法等の工夫
 - 予習・復習を必要とする授業（反転授業）については、学科の殆どの教員が Web シラバスを利用して実施している。その効果は、各教員が学生の成績や期末授業アンケートなどを基に授業改善レポートで検証を行っている。
 - ⑥ 図書館設備・環境の改善
 - ・ 各専任教員が自分の専門分野の中で特に学生に読んでもらいたい本を選定し図書館に揃えた。経済・経営・会計・簿記・ビジネス実務・図書館分野の本の良書を取り揃えたことは学生の更なる勉学に役立つと期待される。
 - ・ また今年度から、教室の一部に新聞の閲覧コーナーを設けた。6 紙用意され、記事の読み比べに適している。
 - ⑦ 入学前指導の実施内容
 - ・ 入学前セミナーで学科長および担任による入学までに習得すべき課題について説明を行った。
 - ⑧ 学科独自の個別的な学習支援の取組
 - ・ 各教員がオフィスアワーを利用し、学生の個別対応を実施している。また、資格関連や編入学などの個別対応を長期休暇・休日・時間外などを利用して実施していることもある。
- (3) 課題
- ① 成績不良であっても改善に努める学生と、そうでない学生の二極化が生じている。
 - ② 学生が進んで図書館に足を運び学修するきっかけづくりが必要である。科目での課題提出と絡めた指導が必要である。
 - ③ また科内の新聞の閲覧コーナーは、予想以上に学生が活用している感があるが、ただ読むだけではない新聞の活用策を検討していく必要がある。
 - ④ 学科独自の個別的な学習支援を行うため、長期休暇・休日・時間外などを利用せざるを得ない状況のため、担当する教員への負荷が大きくなるため、効率的かつ効果的な個別対応の方策を検討する必要がある。
- (4) 特記事項
- (5) 改善状況・改善計画
- ① 今後は成績不良者への補習を検討しなければならない。
 - ② 1 年次の「大学教育と学修」は専任教員全員がオムニバスでコマを担当している。この科目の指導を通して図書館利用を促すと共に、より学生が利用しやすい図書館のあり方や新聞の活用策を提案していく。

19. 生活支援（担当：学生委員）

(1) 根拠資料

『令和 3 (2021) 年度学生のしおり』

(2) 現状

- ① 学生部・保健室と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。

(詳細は学生部で記載のため省略)

- ② 学生への支援・相談は主にゼミ担任が担当している。

(3) 課題

- ① カウンセリングを必要とする学生が増えている。

- ② 母子家庭など経済的支援を必要とする学生が増えている。

(4) 特記事項

(5) 今年度の実施計画

学生部・保健室との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

20. 進路支援 (担当：就職担当)

(1) 根拠資料

卒業生就職先報告書

経営情報学科 NAS システム

(2) 現状

- ① 本学に来た求人は、学生 (Education システム) にデジタルデータとして提供している他、紙媒体の求人票を学内 2 か所 (3F 事務室廊下、就職資料室) で閲覧できるコーナーを設置している。
- ② 近年増加する就職支援サイト(マイナビ・リクナビ等)の使い方や登録方法を指導し、早期に活動を開始するよう促している。
- ③ 企業へのエントリー方法や履歴書の書き方、そして礼状の出し方までの一連の就職活動は、進路ガイダンスにて一斉指導を行っている。
- ④ 学生の個別支援は各ゼミナール担当教員が行っている。少人数であるため、学生ひとり一人の資質に合わせた指導が出来ている。
- ⑤ 就職活動に困難が生じている学生に対しては、就職支援センターと連携し、個別指導が出来る体制を構築している。

(3) 課題

- ① 求人情報提供場所が散在している状況を改善する必要がある。
- ② 就職活動の多様化に合わせた指導が必要である。採用試験内容もコロナ禍にあり変化している。
- ③ 就職活動の前倒しが考えられることから、進路ガイダンスのスケジュールの見直しが必要である。
- ④ ゼミナール担任による指導のバラつきを無くすために、キャリア・ビジネス系の科目にて、基礎的な指導をより強化する必要がある。

⑤ 就職活動の困難な学生は勿論のこと、編入学試験の結果によっては、進学から就職に切り替える必要が生じる。企業への個別アプローチが必要となり、就職支援センターの協力が必要である。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

① 就職支援センター横の掲示板を閲覧している学生が少ないことから掲示を廃止し、学生（Education システム）に配信するデジタルデータと、3F 事務室廊下の紙データ配信に集約する。

② ビジネスとキャリア系科目にて、最新の採用試験情報も提供していく。リモート面接対策についても学生に練習の場を与える。

③～⑤まで継続するが、就職活動スケジュールが不明確であるため、学生が希望する進路に合わせた柔軟な指導がより必要となる。科内での情報共有と就職支援センターとの連携強化に努める。

2 1. 健康支援（担当：学生委員）

(1) 根拠資料

『令和 3 (2021) 年度学生のしおり』

(2) 現状

障がいのある学生等に対する個別支援の強化

- ・入学前に申請があった場合、保健室から各学年担任に連絡される。本人の意思を確認し、周知する範囲を厳守しプライバシーの保護に努めている。
- ・今年度は「緊急性が高いアレルギー症状」への対応に関する講習を全教員が受講した。さらにアルコールアレルギー疾患のある入学生に関する情報を共有し、教室における消毒には細心の注意を払った。次年度も同様の対応が必要である。
- ・学年はじめに保健室から学生の健康情報の提供があり、それに基づいて学生への対応には注意を払っている。

(3) 課題

学習障害や発達障害を抱える学生の増加に対する対策を講じるべきと考える。基本方針として保健室との連携にて対応しているが、学修や就職支援等のゼミ担任の負担が大きいと言える。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

環境整備で対応できる支援策は速やかに実施し、学習障害や発達障害を抱える学生に対しては保健室との連携を強化していく。

2 6. 教育研究活動（担当：学科長）

(1) 根拠資料

①授業アンケート集計結果（教務部）

②令和3年度富山短期大学紀要

(2) 現状（学科教員の教育研究活動の概況）

①教育活動

授業アンケートによる総合評価値は、4点満点中、学科平均3.6となっており、学生の満足度は概ね良いと判断できる。

②研究活動

学科教員4名が富山短期大学紀要に計5編、5名が学会等外部に計9編の研究成果を発表し積極的な研究活動を行っている。

(3) 課題

配慮学生が年々増え、その指導に要する時間増により研究活動等に割ける時間が減る傾向にある。よって、配慮学生指導の効率化が課題である。

(4) 特記事項

(5) 改善状況・改善計画

配慮学生の卒業、及び出口（就職）確保が効率的にできるよう、学科内で情報を共有し対応方法を体系化していく。